

— 2050年 瀬戸内海に新たに流出するプラスチックごみゼロを目指して —

## ナッジ理論を活用した啓発資材設置による“ポイ捨て・散乱防止効果”を検証！

令和7年3月3日～広島県の玄関口「広島駅周辺の水辺空間」にて実証事業を開始

広島県（知事：湯崎 英彦、以下「県」）は、陸域を発生源とする海洋ごみの削減に向けて、広島駅周辺地区まちづくり協議会\*1（会長：森 正伸、以下「駅まち協」）との連携・協働により、ナッジ理論\*2（行動変容の仕掛け）を活用した啓発資材（横断幕等）を広島駅周辺の水辺空間に設置し、たばこの吸い殻やペットボトル等のポイ捨て防止、周辺の散乱防止効果等を検証する実証事業を、広島市（市長：松井 一寛、以下「市」）の協力の下、令和7年3月3日（月）から3月28日（金）まで実施します。

### 本事業のポイント

- ① ナッジ理論を活用したメッセージやイラストにより、水辺空間を訪れた方へ楽しみながらポイ捨て防止や海洋プラスチック問題に係る理解を促進します。
- ② 設置するメッセージやイラストは地域特性を考慮しつつ、横展開も可能な内容としていくことで、他地域でも展開可能なモデルケースとなるよう実施します。
- ③ 海ごみゼロを目指す広島県と、良好な環境づくりや新たな魅力づくりなどにより、地区の価値の維持・向上に取り組む駅まち協による共同プロジェクトです。また、GSHIP\*3 参画会員であるTOPPAN 株式会社と連携し、ナッジデザインや同社の社会価値共創事業「ミライーね！」のオリジナルキャラクター等を活用した掲出資材のデザイン制作、分析・検証を行います。

### ■ナッジ理論を活用した啓発内容



【実際の掲出写真】



【イラスト ver】



【ミライーね！キャラクターver】

## 【特徴】

### ① メッセージ

複数種類のナッジを活用することで、様々な視点から行動変容を促進します。

例：・社会規範

一般的に受け入れやすい行動や価値観の基準を示し、人々が自発的にルールを守ることを促進します。

・自己効力感

自身の行動に効果があることを意識させ、行動変容を促進します。

・ナッジプラス

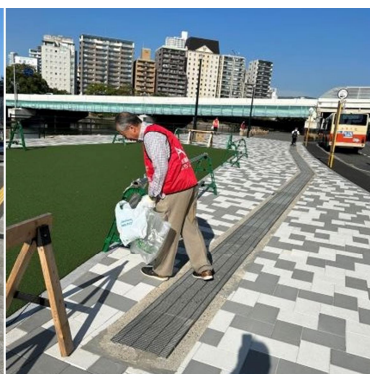
ポイ捨て等を行わないことが海洋プラスチックごみの削減につながることを問いかけ形式のメッセージとすることで理解を促進します。

### ② デザイン

通常のイラストに加え、より幅広い世代の方に親しみをもってもらうために、ミライーね！キャラクターを使用したデザインも採用し、効果の最大化を目指します。

## ■本事業の背景・目的

- 県では、2050年までに、瀬戸内海に新たに流出する海洋プラスチックごみをゼロにすることを目指し、海ごみ対策に係る官民連携プラットフォーム「GSHIP」を設立し、GSHIP 参画会員等の多様な関係主体と連携、協働しながら、プラスチックごみの流出防止、ナッジ等を活用した啓発資材による消費者の行動変容に向けた取組等を実施しています。
- こうした中、多くの人が集まる川の近くに気軽に立ち寄れる親水空間については、一部の利用者によるポイ捨てごみ等が課題となっており、周辺の散乱、河川への流出にも繋がっています。
- また、広島駅周辺の水辺空間では、駅まち協の定期的な清掃活動の実施等により、周辺エリアの環境美化の維持に努めていますが、継続的に散乱ごみが発生している状況となっています。
- このため、本事業により、ポイ捨てや散乱防止とともに海洋プラスチックごみに係る理解促進を図ることで、海洋プラスチックごみ削減と良好な環境づくりに寄与することを目指します。



【駅まち協によるおもてなし一斉清掃の様子】

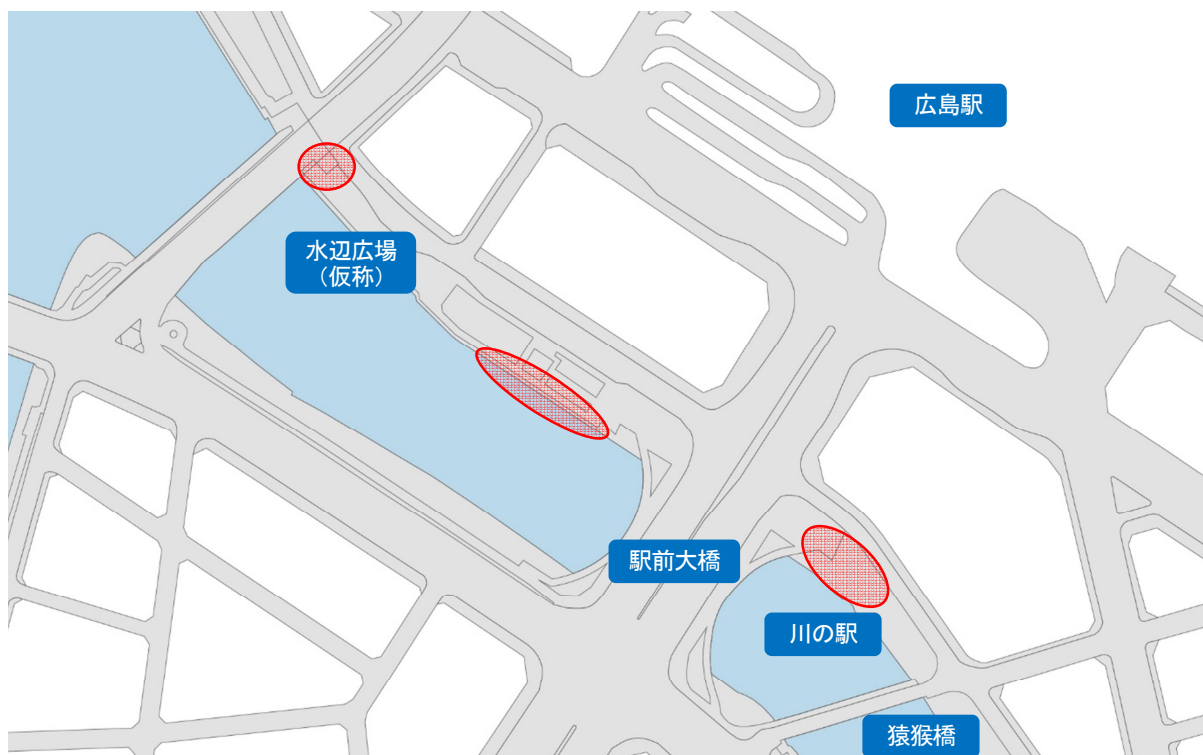
【周辺の散乱ごみの状況】

出典：広島駅周辺地区まちづくり協議会

## ■実証事業の概要

●時期：令和7年3月3日（月）～3月28日（金）（約1か月間）

●場所：猿猴川左岸の河岸緑地（赤枠エリア）



●内容：ナッジを活用した啓発資材の設置前後での周辺のポイ捨て、散乱状況を比較し、その効果や課題を検証します。

●検証内容（予定）

- ・周辺の散乱状況の変化
- ・回収物の組成分析（組成ごとの散乱量の変化）

## ■本事業における各者の役割

広島県	・本事業に係る総合調整
広島駅周辺地区まちづくり協議会	・本事業への総合的な支援 ・清掃活動など既存の活動に係る情報提供
TOPPAN 株式会社	・啓発資材の検討、デザイン、制作 ・効果検証
広島市	・実施場所に係る協力、各種調整

\*1 広島駅周辺地区まちづくり協議会は、広島駅周辺の企業・団体等で構成されるエリアマネジメント団体で、広島の玄関口である広島駅周辺エリアが「ワクワクドキドキできるまち」「変え続けるまち」となるように、環境づくりや魅力づくりに取り組んでいる。

広島駅周辺地区まちづくり協議会  
SNS「hiroshima-ekimachi」

Facebook



Instagram



\*2 「ナッジ」(=nudge)は、「ひじで軽くつつく」という意味で、人々の選択や行動を、強制ではなく自然な形で望ましい方向へと導く行動経済学の理論

\*3 正式名称は、「GREEN SEA 瀬戸内ひろしま・プラットフォーム」。

瀬戸内海に新たに流出する海洋プラスチックごみの量を2050年までに「ゼロ」にすることを目指して、県が官民連携組織体として令和3年6月に設立したプラットフォームで、広島市、TOPPAN 株式会社を含む、飲料メーカー、小売・流通、素材メーカー、県内全市町など、135社・団体（R7.2.28時点）が参画している。

**【本事業に関するお問い合わせ先】**

広島県 環境保全課 瀬戸内海環境戦略グループ（担当：小笠原、増田）

TEL：082-513-2925      メール：kanhozen@pref.hiroshima.lg.jp